

クラウドストレージ選定で
抑えておきたい
10のポイント



はじめに

「クラウドストレージ」という言葉を知っている人は、あまり多くないかもしれません。しかし、私たちは日常的に、スマートフォンからクラウドにデータを保存しています。それが、クラウドストレージだと意識する必要すらありません。クラウドストレージは、もはや生活の一部なのです。

ビジネスでも、クラウドストレージが活用されるようになってきました。管理者側から見ると、セキュリティやコンプライアンスといった観点から、組織のデータ資産を集中管理できる仕組みが有用なためです。さらに、働き方改革を支えるインフラとしても、注目を集めています。

クラウドストレージを使えば、部門のファイルサーバは不要になります。誤ってデータを消してしまったり、最新版がどこにあるのかわからなかったりすることはありません。外部とのデータのやり取りもスムーズになります。クラウドストレージ内にあるファイルへのアクセスを許可すれば、セキュリティを保った上で自由にアクセスすることができます。

では、そんなクラウドストレージが変えるビジネスの世界を、少し覗いてみましょう。



02 はじめに

03 クラウドストレージが変えるビジネスの世界①
ファイルサーバ利用時の課題を解決する

04 クラウドストレージが変えるビジネスの世界②
社外とセキュアにファイル共有する

05 クラウドストレージが変えるビジネスの世界③
オフサイトで最新情報を活用する

06 クラウドストレージを選定するにあたって
選定時に見落としがちな10のチェックポイント

07 Dropboxだからこんなに便利。3つの象徴的な利用シーン

クラウドストレージが変えるビジネスの世界①

ファイルサーバ利用時の課題を解決する

多くの組織では、部門ごとにファイルサーバが乱立しています。

現場に物理的に存在するストレージは、便利ではあるのですが、実は数々の問題を引き起こしています。

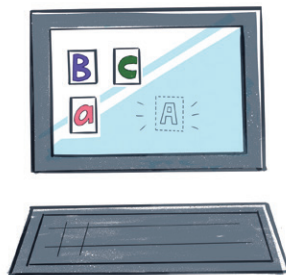
クラウドストレージは、ファイルサーバの抱える課題を解決できます。

ファイルサーバだと...

「昨日と数字が
変わっていますが、
誰かいじりましたか？」

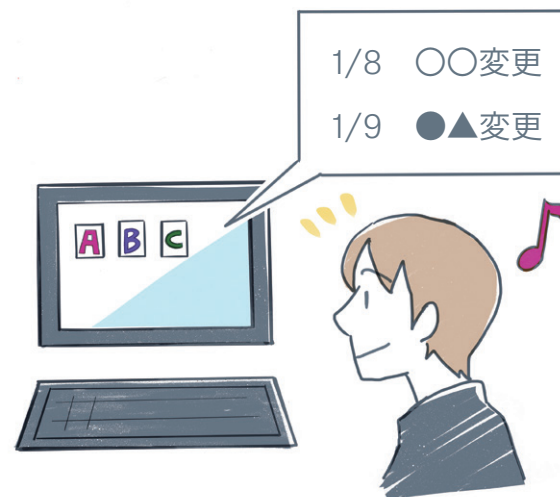
昨日保存した
ファイルが
ないんですけど...

同じファイル名で
上書きしちゃったかも...



クラウドストレージなら...

- いつ、だれが更新したのか一目瞭然
- アップデート履歴を管理し、いつでも最新版を共有
- たとえファイルを消してしまっても、ロールバック可能



クラウドストレージが変えるビジネスの世界②

社外とセキュアにファイル共有する

社外の関係者とファイルをやり取りする際に、セキュリティを気にせず外部サービスを使うことがあるかもしれません。
また、内容についての議論は電話やメールを使うため、勘違いの原因になることもあります。
クラウドストレージなら、ファイルを“共有”するため、そのような問題は起こりません。

ファイルサーバだと...

いろんな人から
修正が返ってくるから
反映するのが大変で.....

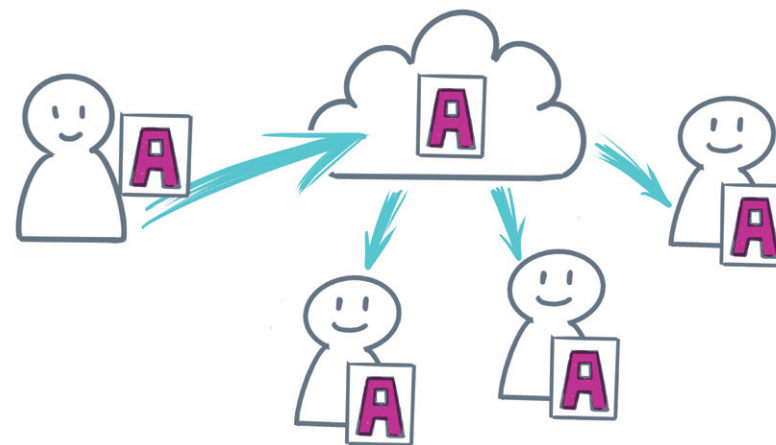
ファイルの
アップロード中なので、
休憩に行きます~

ファイル転送サービスの
セキュリティ？
パスワードがあるから
大丈夫でしょ



クラウドストレージなら...

- セキュアな環境にあるファイルを“共有”
- クラウドにある1つの最新版ファイルを全員で直接編集
- ファイルの修正ポイントで議論を残し、経緯を追跡可能



クラウドストレージが変えるビジネスの世界③

オフサイトで最新情報を活用する

仕事に使う資料は、電子ファイルになっていることがほとんどです。

出張先で仕事をするときに、だれかがブラッシュアップしてくれた資料をスムーズに使えると理想的でしょう。

クラウドストレージがあれば、そんな社内のコラボレーションも推進できます。

ファイルサーバだと...

最新のプレゼン資料、
至急メールして！

外で仕事を進めていましたが、
PCが故障してしまい.....

明日自宅作業日なので、
資料をダウンロードして
おかないと.....



クラウドストレージなら...

- ネットワークさえあれば、いつでもどこでも最新ファイルを共有
- あらゆるデバイスからアクセス可能
- 災害時など電力が制限される中でもクラウドにある高可用なクラウドストレージは稼働



クラウドストレージを選定するにあたって

市場には、複数のクラウドストレージがあります。カタログスペックはそれほど変わらないかもしれませんが、では、その中で、どれを選べば良いのでしょうか。最も大切なのは、「みんなが使ってくれる」こと。どれだけ技術的にすばらしく、数々の機能が搭載されていても、だれも使わないのなら意味はありません。使い勝手の良さを重視しましょう。使えば使うほど、生産性は上がります。

ただ、実際に使ってみると、カタログスペックでは見えてこない部分で現場の生産性を損ねてしまうようなケースもあります。以下のチェックリストで事前に確認しておきましょう。

選定時に見落としがちな10のチェックポイント



1

ネットワーク負荷を考えていますか？

大人数で使うと、パフォーマンスに影響が出るクラウドストレージも存在します。事前に検証しておきましょう。



2

内外と簡単にファイルの共有ができますか？

クラウドストレージでも、社外とのファイル共有に使いやすさやセキュリティの面で問題のあるソリューションも存在します。事前に検証しておきましょう。



3

ファイルサーバの代替となりますか？

そのクラウドストレージは、権限設定など十分な管理が可能でしょうか？事前に拡張性を考慮しておきましょう。



4

十分なガバナンスを効かせることができますか？

監査ログのカバー範囲や保持期間は十分ですか？現在の利用状況は把握できますか？また、フォルダへのアクセス管理が簡単であることも重要です。複雑だと活用されなかったり、設定ミスが発生したりすることもあります。



5

その他サードパーティとの連携機能は充実していますか？

社内にはいろいろなワークフローがあります。それらの業務で活用しているクラウドサービスとの連携機能が充実していることが大切です。クラウドサービスには、例えばSalesforce、Slack、Zoom、Adobeなどが挙げられます。



6

データの全文検索機能は十分ですか？

検索機能が不十分だと、ファイルを探すことに多くの時間に費やしてしまいます。事前に全文検索機能の有無を確認しておきましょう。



7

ユーザーへの教育が簡単ですか？

導入しても使いにくかったり、利用するための教育コストが高すぎたりしては、本当に活用されるクラウドストレージになり得ません。



8

対応するデバイスやOSは適切ですか？

現場では、さまざまなデバイスが活用されている可能性があります。全社的な観点で事前に考慮しておきましょう。



9

ライセンスはシンプルですか？

そのクラウドストレージは、ユーザー数、データ量などに応じたわかりやすいライセンス体系を備えていますか？コスト計算をしやすいツールであることが重要です。



10

自社でもっとも使われているファイルのプレビューに対応していますか？

クラウドストレージのメリットの一つに、専用ソフトが無くてもファイルのプレビューを可能にしてくれることがあります。よく使われるファイルの例として、例えばAdobeのPhotoshopやIllustrator、CADファイルのDWGなどが挙げられます。

Dropbox Business のご紹介

Dropboxの使い勝手の良さは、全世界で5億人が使っている個人向けクラウドストレージサービスでお墨付きを得ています。

その上で、ネットワークをも自社で運用管理する技術力とセキュリティは、選定要件として二の次とはいえ、安心できるものです。

下記のようなDropboxならではの主要な機能をはじめ、種々の魅力を備えたこのクラウドストレージは、現場の生産性を飛躍的に高めてくれるはずです。

セキュリティ

- ✓ランサムウェアに感染しても
ロールバックできる
- ✓通信だけでなく、データも分断して
ブロック化し、暗号化して保存される

ITガバナンス

- ✓IT部門によるスムーズな管理を支援する
優れたUIを備えている
- ✓ネットワーク負荷を抑制する特許取得済み
技術を保有している

仕事が楽になる

- ✓PC切り替えの際に、すぐに業務に復帰できる
- ✓社内および外部とのデータのやり取りが
極めてスムーズになる

Dropboxだからこんなに便利。3つの象徴的な利用シーン

1. 優れたパフォーマンス

「差分同期」、同一ネットワーク内のPCで一斉に同期する「LAN同期」という2つの強力な特許取得済み同期機能によってパフォーマンスを最大化し、社内のネットワーク負荷も軽減できます。



2. 扱いやすいGUI

個人向けクラウドストレージは、全世界で5億人のユーザーが利用しています。法人向けになっても、UI/UXは大きく変えていません。ビジネスの現場で活躍するだれもが、直感的に利用できます。



3. Dropbox Paperで共同作業

社内外のコラボレーションツールとして、オリジナルのDropbox Paperを提供しています。

参加者全員がコメントを入れながら議事録や企画書などのドキュメントを協力してブラッシュアップできます。

